

# 静脈血栓塞栓症について

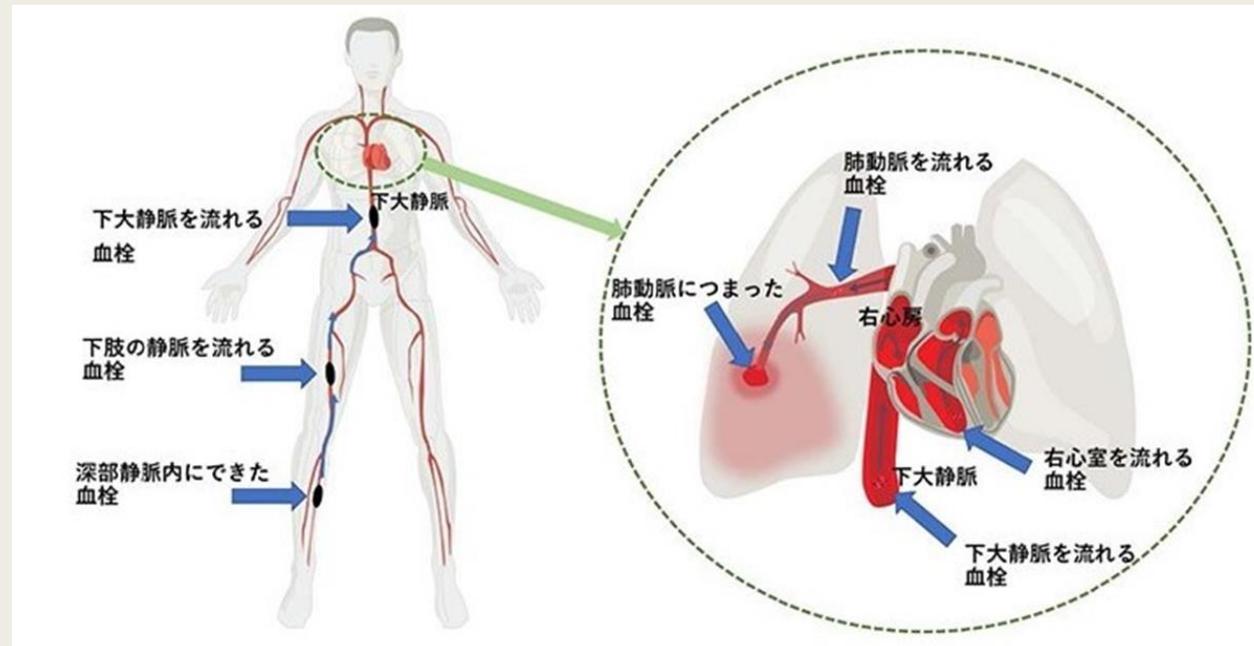
愛知県がんセンター  
循環器科部

# はじめに

- 循環器科ではがん診療に関連した循環器疾患を中心に診療を行っています。
- その中でも「静脈血栓塞栓症」は多くのがん患者さんが遭遇する可能性のある病気です。
- そこで今回は「静脈血栓塞栓症」について知っていただくと思います。

# 静脈血栓塞栓症とは

- 「静脈血栓塞栓症」は、下肢（ふくらはぎや太もも）やお腹の静脈などに血の固まり（血栓）ができる深部静脈血栓症と、おもにその血栓が流れて肺の血管（肺動脈）につまってしまう肺血栓塞栓症にわけられます。



# おもな症状

## ■ 肺血栓塞栓症



息切れ

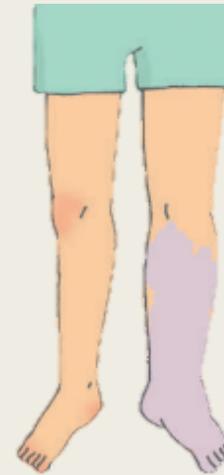


胸痛



動悸、冷や汗

## ■ 深部静脈血栓症

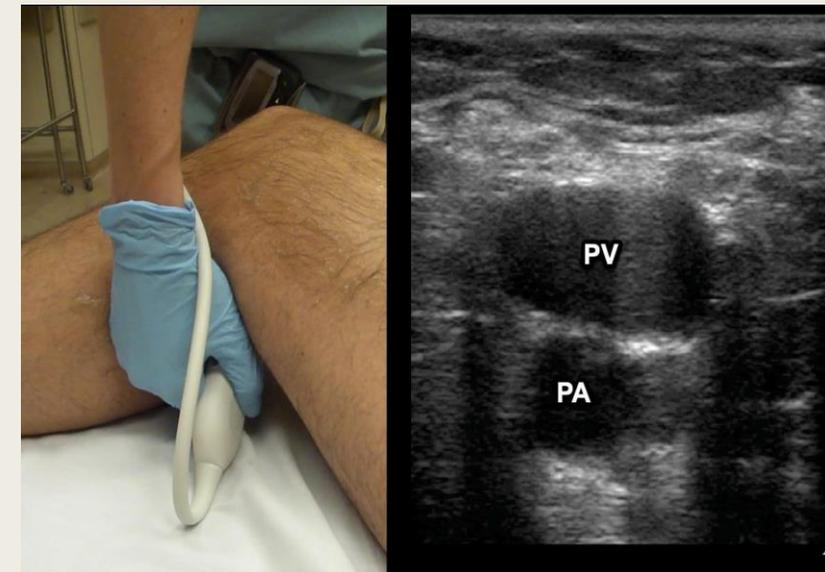
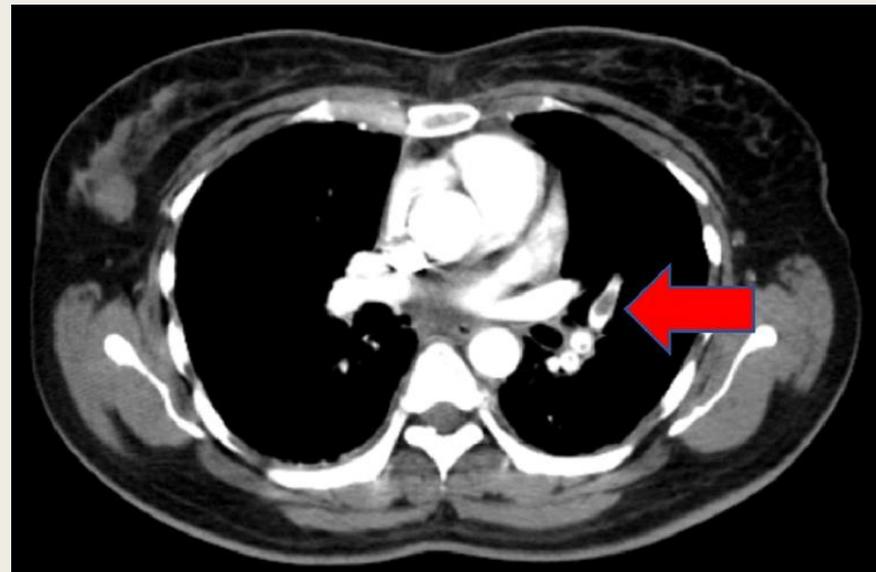
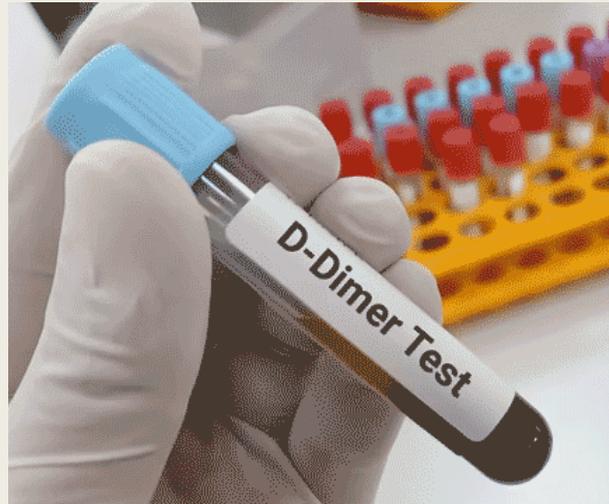


むくみ

- 症状がないことも多く、定期的なCT検査で偶然見つかることもあります。

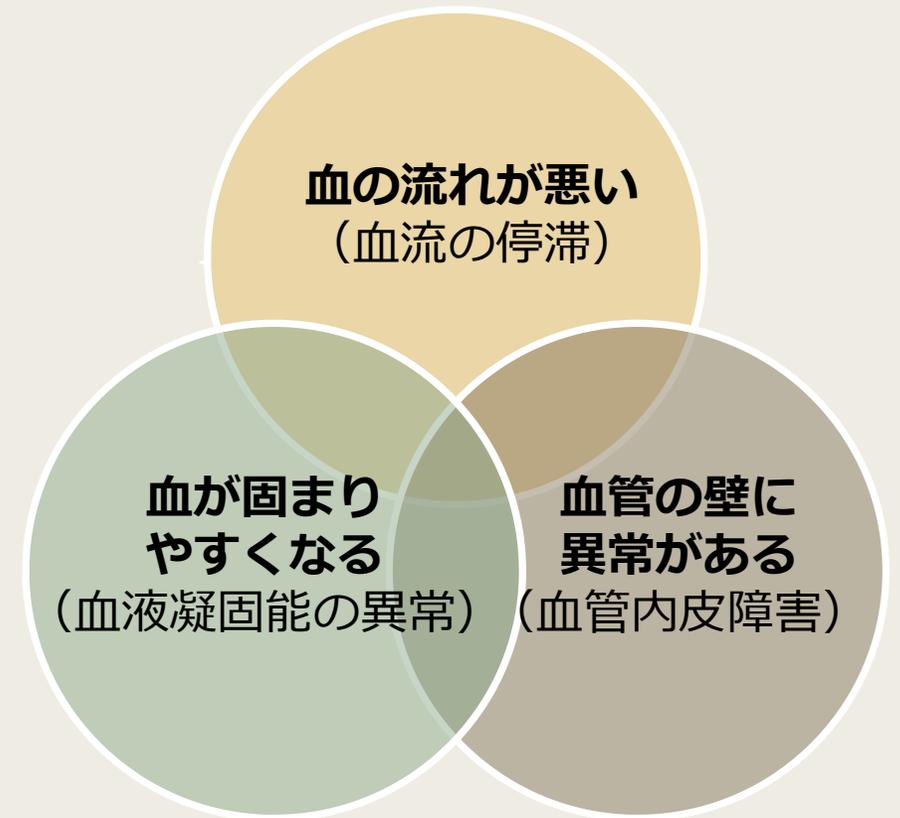
# 静脈血栓塞栓症の検査

- 血液検査 → 血栓を疑ったり、治療効果の参考になります。
  - 造影CT検査
  - 下肢静脈超音波（エコー）検査
- つまっている血栓を見つけることができ、診断や治療効果を確認できます。



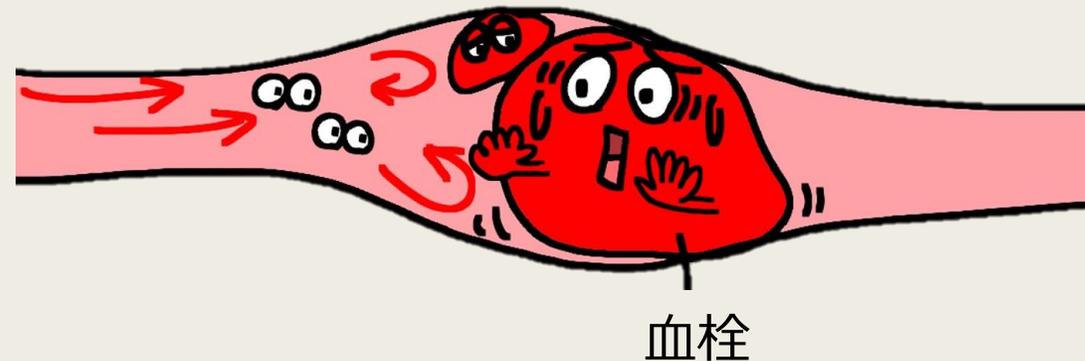
# なぜ血栓ができるの？

- 血栓は3つの要因でできやすくなります。
- がん患者さんでは
  - ① 腫瘍による静脈の圧迫や活動量の低下によって血流が悪くなりやすい。
  - ② がんやがんに伴う炎症によって、血液の固まりやすさに異常がでることがある。
  - ③ 化学療法や点滴のためのカテーテルで血管の壁が傷つくことがある。



# がん患者さんは血栓がしやすい？

- がん患者さんが1年間に静脈血栓塞栓症を発症する可能性は約1.4%です。病気のない方と比べて4.7倍も血栓がしやすいといわれています。
- 特に、膵臓がん、血液の腫瘍、脳腫瘍、肺がんの患者さんに多いことが知られています。
- またがんのステージが進むにつれて、血栓もできやすくなっていきます。

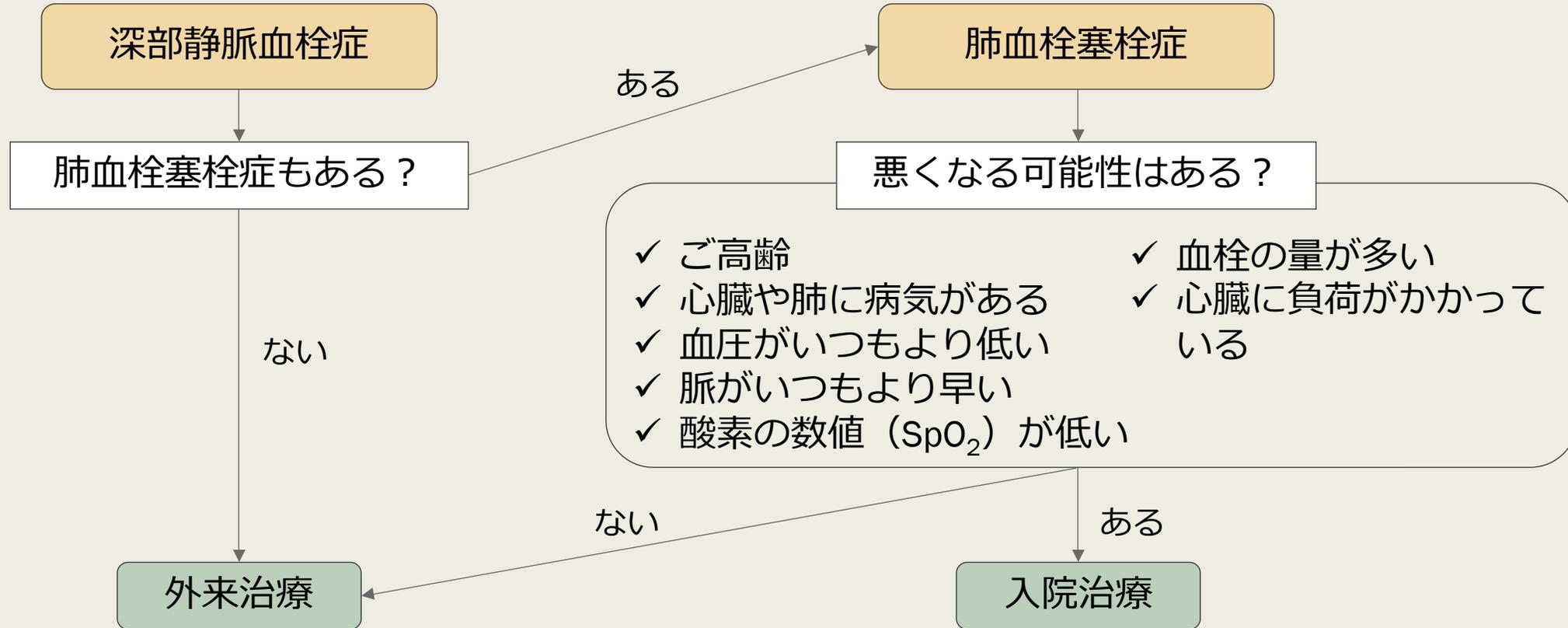


# がん治療は血栓がでやすくなる？

- がんに対する薬物治療の中には血栓がでやすくなるものがあります。
- また化学療法と一緒に使われることのあるステロイドは血栓がでやすくなるため、薬の組み合わせにも注意が必要です。

薬の種類	薬の名前	静脈血栓塞栓症の頻度
プラチナ製剤	シスプラチン	頻度不明
免疫調節薬	レナリドミド	10%以上
モノクローナル抗体	リツキシマブ ベバシズマブ ラムシルマブ	10%以上
チロシンキナーゼ阻害薬	レンバチニブ スニチニブ	1~10%
	エルロチニブ	10%以上
ホルモン療法	タモキシフェン トレミフェン	数%

# 治療の流れ



- 患者さんの状態や検査結果によって重症度を判断します。
- 重症度に応じて入院治療の必要性を検討します。
- 当院での治療が難しい場合は専門的な循環器治療ができる病院への転院が必要となります。

# 静脈血栓塞栓症の治療

最も重要



抗凝固療法

- 治療の中心となる薬。
- 血液をサラサラにして血栓を溶かします。
- 点滴と内服があり、病状によって通院治療も可能です。



血栓溶解療法

- 血栓を溶かす効果は高いが出血リスクが高くなる。

血栓摘除術

- 手術やカテーテルで血栓を除去する。
- 重症な患者さんの場合に検討する治療です。
- 当院での実施は難しいため転院が必要です。

# 抗凝固療法の種類

薬の形状	名前 ※薬品名は先発医薬品 (代表品)を記載	使用できるタイミング		
		初期治療 (1-2週間)	維持療法	手術時の 血栓予防
点滴	ヘパリンナトリウム	○	×	○
	アリクストラ	○	×	○
	クレキサン	×	×	○
内服薬	ワーファリン	×	○	×
	エリキュース	○	○	×
	イグザレルト	○	○	×
	リクシアナ	×	○	×

# がん患者さんは再発が多い？

- 一般的な静脈血栓塞栓症の治療期間は、深部静脈血栓症で3カ月、肺血栓塞栓症で6カ月です。抗凝固薬療法の内服をしていただき、外来で治療を継続します。
- 治っていない「活動性のがん」がある患者さんは、年間約20%の方が血栓を再発してしまいます。
- そのためがん患者さんでは、がん治療の状況に応じて1年またはより長期間にわたって抗凝固療法を継続します。

# 血栓を予防するためには？

- 長時間での同じ姿勢を避ける。
- 長時間座ったり立ったりする必要がある場合は、休憩を取り足を動かす。
- 必要十分量の水分を摂取し脱水を避ける。
- 肥満は血栓ができやすくなるので体重管理をする。
- 医師からの指示がある場合は、弾性ストッキングを着用する。



# 最後に

- がん治療をしていく中で、静脈血栓症以外にも循環器的な対応が必要となることがあります。当科では、各診療科でのがん治療が安全に行われるようサポートし、治療後に循環器疾患で困ることがないようにがん専門医と連携して診療を行っています。
- 心臓や血管など循環器のことでご不明なことがあれば循環器科にお気軽にご相談ください。

